

神木

字、王大則并天下人此内任太平臣守昊命太平寶唐大曆中亦有成都瑞木有文天下太平見金史恐此類是乎、

〔伊呂波字類抄志〕神木

〔類聚名物考神祇十三〕神木

今神木にて、その社によりて、木を植る事有り、神の詫所なり、稻荷三輪の杉をあがむるが如き是なり、その來る事久シ、論語にも見ゆ、事は周禮に出たり、

○按ズルニ、神木ノ事ハ、神祇部神木篇ニ詳ナリ、參看スベシ、

〔大和本草二目〕雪中四友 月令廣義曰、玉梅、臘梅、水仙、山茶、又松竹梅、爲歲寒三友、

〔世事百談〕松竹梅

松竹梅を、わが邦には慶賀のものとする、唐土にては歲寒三友といふこと、月令廣義に見えたり、葛原詩話に、世俗の恒言にして賦咏に顯ること稀なり、高士奇が金鼈退食筆記に、五龍亭舊爲太素殿、創于明天順年、在太液池西南、向後有草亭、畫松竹梅于上、曰歲寒門、また元張伯淳題皇甫松竹梅圖詩あり、曰、三友亭々歲晚時、政緣冷澹易相知、何須近舍今皇甫、却向圖中覓補之、元詩二集養蒙先生集に出づといへり、猶ふるく見えたるは、元次山巧論に、古人郷無君子、則與山水爲友、里無君子、則以松竹爲友、坐無君子、則以琴酒爲友、東坡詩に、風泉兩部樂、松竹三益友といへること、陔餘叢考歲寒三友の條にいへり、唐の李邕が題畫の詩に、對雪寒窩酌酒、敲氷暖閣烹茶、醉裏呼童展畫、咲題松竹梅花とあり、

松名稱

〔倭名類聚抄二十〕松 漢書云、樹以青松詳容反、字亦作榕、見唐韻、和名萬豆

〔箋注倭名類聚抄十〕所引賈山傳文、略中 按、廣韻松字下云、窠古文、玉篇同、說文亦有窠字、云松或从

容、則榕當作窠、玉篇云、榕、余鐘切、木名、又榕詳見南方草木狀、與窠不同、略中 說文、松、松木也、